

講義年月日 2004年5月10日(月)

講演者 加藤 好郎氏(慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)

テーマ 慶應義塾大学図書館の経営戦略

講義内容

1. 慶應義塾大学図書館の歴史

2008年開校150周年を迎える。義塾とは…パブリックスクール(イギリスでいう私塾)

2. メディアセンター設立の経緯

1990年湘南藤沢キャンパスオープン SFCメディアセンターのコンセプト=ペーパーレス

1993年4地区メディアセンター設立

研究教育情報センター(図書館)と計算センターのドッキング…安易な組織統合、現場の混乱

3. リエンジニアリングと集中処理機構の設置

テクニカルサービスのリエンジニアリング(7万冊の整理滞貨を1年半で解消)

トヨタの看板方式。カタログガールの意識改革。パブリックサービスの充実がコンセプト。

レファレンス担当の増員。相互貸借担当の独立。マルチメディアサービス。書庫管理担当設置。

1998年ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)の別離

1998年集中処理機構設置(メディアセンター本部)5地区のテクニカルサービスを三田に統合

4. 大学図書館が抱えている問題

もの:「書庫の狭隘化」「研究機関の不足(Z39.50、書誌ユーティリティ)」「著作権問題」

ひと:「人材不足、人手不足」「図書館員の突然の人事異動」「専門職としての図書館員の確保」

かね:「予算の伸び悩みあるいは削減」…少子化・定員割れ「洋雑誌の高騰」…rareなものは分担収集。

私立大学図書館コンソーシアム(早大事務局)83大学(2004.5)

私立大学情報教育協会に「教育研究情報大学共同購入機構」が設置された

電子図書館の立ち上げの設備投資(グーテンベルク聖書8億円) 学術情報基盤の整備は図書館がすべきである。

5. 三田メディアセンターの7つの戦略

・Cooperative Service 分担収集、DDS、RLGのジェネラルメンバーに

・Space Issues 保存図書館 山中資料センター、白楽サテライトライブラリ(年間5000万円)

・Collection Development 選書基準2003年版作成、蔵書構築検討委員会、文科省概算要求

・Organizing Bibliographic Data ・Electronic(Digital) Library グーテンベルク聖書

・Research and Development ・Training of Professional Librarians

図書館員だけでなく、大学職員も専門職 少数精鋭

アウトソーシング導入の目的は専門職の育成。UCSD、TORONTO大学との交換協定。

書誌学にアプローチできる図書館員育成 斯道文庫 2008年和漢書目録作成予定

6. 専門職として必要とされる7つの機能

・University Librarian 財務戦略、構想力、生産性(ビジネスモデル)

・Bibliographer 選書、貴重書、補修、保存(コンサバター)

・Archivist アーカイブスの維持管理(目録・保管・提供等)

・System Librarian 利用者用、業務用パソコン管理、DB構築

・Cataloger 書誌ユーティリティの研究、Z39.50等

・Reference Librarian 情報リテラシー教育、デジタルレファレンス

・Serials Librarian STMにおける図書館戦略 利用者(研究者)はもう図書館にこない?

7. おわりに

もはやひとつの大学図書館では何も出来ない。

私立大学図書館協会 協会から私立大学へ 日本のRLGあるいはARLの立ち上げ

ダーウィン「もっとも強いものが、生き残るわけではない。唯一、生き残れるのは、変化できるものである」